



小島 修, 滅紫 20-07, 2020, 陶土、ガラス, H57 × W47 × D50 cm

いびつなり  
小島修: 歪形

2020年12月3日(木) — 2021年1月13日(水)

現代美術 艸居

605-0089 京都市東山区元町381-2

開廊時間: 10:00AM-6:00PM 定休日: 日・月

冬季休廊: 12月27日(日) — 2021年1月4日(月)



## プレスリリース

この度、現代美術 艸居では「小島修:歪形(いびつなり)」を開催致します。国内で11年振りの個展となった昨年の展覧会「真朱と群青」に引き続き、今展では新作10点を含む約20点を展示いたします。アメリカ、台湾を始め国内外で活躍する陶芸家、小島修の作品の数々を是非この機会にご高覧いただけますと幸いです。

栄枯盛衰の中に美をみい出す小島の作品は、原土や陶土のブロックを組み合わせることで表現されます。近年では台湾の伝統的な屋根瓦を焼成したシリーズにも取り組んでおり、焼成によるたわみを特に意識していると小島は言います。

城壁や石垣など人々が積み上げてきた文明が、忘却の果てに朽ちようとするも足掻くようにして輝く一瞬の光。溶けたガラスを覗き込むと思わずそうした光景が立ち上ります。

「人間が構築したものはいつかは崩壊する。人類社会の繁栄は永遠に続くはずがなく、いつもどこか綻びや歪みある」と語り、その綻びや歪みの哀れの中に存在する美を陶芸を通じて表現してきた小島。特に今年は感染症の流行を始め社会情勢の大きな変化により、その判然とした事実が改めて作家の目の前に突き付けられた一年でした。

静かに鎮座する小島の作品は、この世に永遠に続くものはないとしながらもそれをただ悲観するのではなく、そこに確かにある儂くも美しい一瞬の光を私たちの目の前に提示します。

## 作家紹介:

小島 修(こじま・おさむ)

1973年福井県生まれ。現在三重県にて制作。2016年国立台南芸術大学応用研究所修士課程卒業。滋賀県立陶芸の森(甲賀市、滋賀)、アーチャーブレイ財団(モンタナ州、アメリカ)、国立台南芸術大学(台南市、台湾)などにて滞在制作プログラムに招聘。これまで新北市立鶯歌陶磁博物館(新北市、台湾)、ジェイソン・ジャックギャラリー(ニューヨーク、アメリカ)などにて個展を開催し国内外で作品を発表。主な受賞歴には、2005年第7回国際陶磁器展美濃2005陶芸部門銅賞(同2014年)、2006年秀明文化財団第17回秀明文化基金賞、2012年台湾2012国際陶芸ビエンナーレ金賞(2016年同ビエンナーレにて大賞)がある。主なコレクションは、京都市京セラ美術館(京都)、滋賀県立陶芸の森、アーチャーブレイ財団、台北縣立陶磁器博物館、サミュエル・P・ハーン美術館(フロリダ州、アメリカ)など多数。



展示作品紹介(一部):



小島 修, 滅紫20-08, 2020, 陶土、ガラス  
H58 × W40 × D46 cm

小島 修, 滅紫20-06, 2020, 陶土、ガラス  
H42 × W41 × D64 cm



原土を組み合わせ釉薬をかけ数回焼成し形を作ります。最後の焼成でガラスのせて溶かします。



小島 修, Nostalgia16-TWs11, 2016  
台湾の屋根瓦, H26 × W35 × D50 cm

台湾の伝統的な屋根瓦を使用して制作、焼成によるたわみを特に意識した作品です。



小島 修, 哀歌16-S01, 2016  
磁土、ガラス, H15 × W10 × D15 cm

磁土で制作、手びねりで成形、釉薬を掛け焼成します。再度焼成しガラスをのせて溶かします。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。  
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

プレス担当: 元林久美子  
〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2  
motobayashi@gallery-sokyo.jp  
Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457